第１回　オヒョウの持続可能な利用方策検討会

日　時：平成２６年１月２１日（火）　14:00～15:３０
場　所：道庁本庁舎7階水産林務部1号会議室

議　　事

１ 開会
　挨　拶

２ 議題
（１）会長の選出について
（２）利用方策検討会の設置経緯について
（３）二風谷アットゥシ及びオヒョウに関する現状等について
　・アイヌ文化における自然素材の利活用の概要
　・伝統的工芸品「二風谷アットゥシ」の指定の経緯及び現状・課題
　・オヒョウの樹種特性、造成方法
　・オヒョウの分布
　・オヒョウの径級分布予測
　・国有林におけるオヒョウ樹皮採取について
（４）オヒョウの持続可能な利用方策について
　・利用方策検討会の進め方
　・「利用方策」の骨子について
　・今後のスケジュールについて
（５）その他

３　閉会

資　料
資料１　オヒョウの持続可能な利用方策検討会設置要領
資料２　伝統的工芸品（二風谷アットゥシ）原材料供給に係る検討経緯
資料３　アイヌ文化における自然素材の利活用の概要
資料４-１　伝統的工芸品産業の振興に関する法律に基づく伝統的工芸品の指定等について
資料４-２　伝統的工芸品「二風谷イタ」・「二風谷アットゥシ」のＰＲ支援
資料５　オヒョウの樹種特性、造成方法
資料６　オヒョウ分布マップ
資料７　オヒョウ出現パターン
資料８　林分単位でのオヒョウ径級分布予測
資料９　国有林におけるアイヌ民芸品用原木払い下げについて
資料１０　オヒョウの持続可能な利用方策検討会の進め方（案）について
資料１１　オヒョウの持続可能な利用方策の骨子（案）について
資料１２　今後のスケジュール（案）について

第1回　オヒョウの持続可能な利用方策検討会　出席者名簿

構成員

区分	所属	職	氏名	備考
文化	北海道環境生活部アイヌ政策推進室	参事	近藤裕司	
産業	北海道経済部産業振興局産業振興課	産業連携専門参事	大澤政昭	
研究	（地独）北海道立総合研究機構林業試験場森林資源部経営グループ	主査（育林）	大野泰之	
	（地独）北海道立総合研究機構林業試験場森林環境部機能グループ	主査（流域保全）	長坂　有	
森林	北海道森林管理局総務企画部企画課	課長	尾前幸太郎	
	北海道水産林務部森林環境局道有林課	課長	鈴木　匡	

オブザーバー

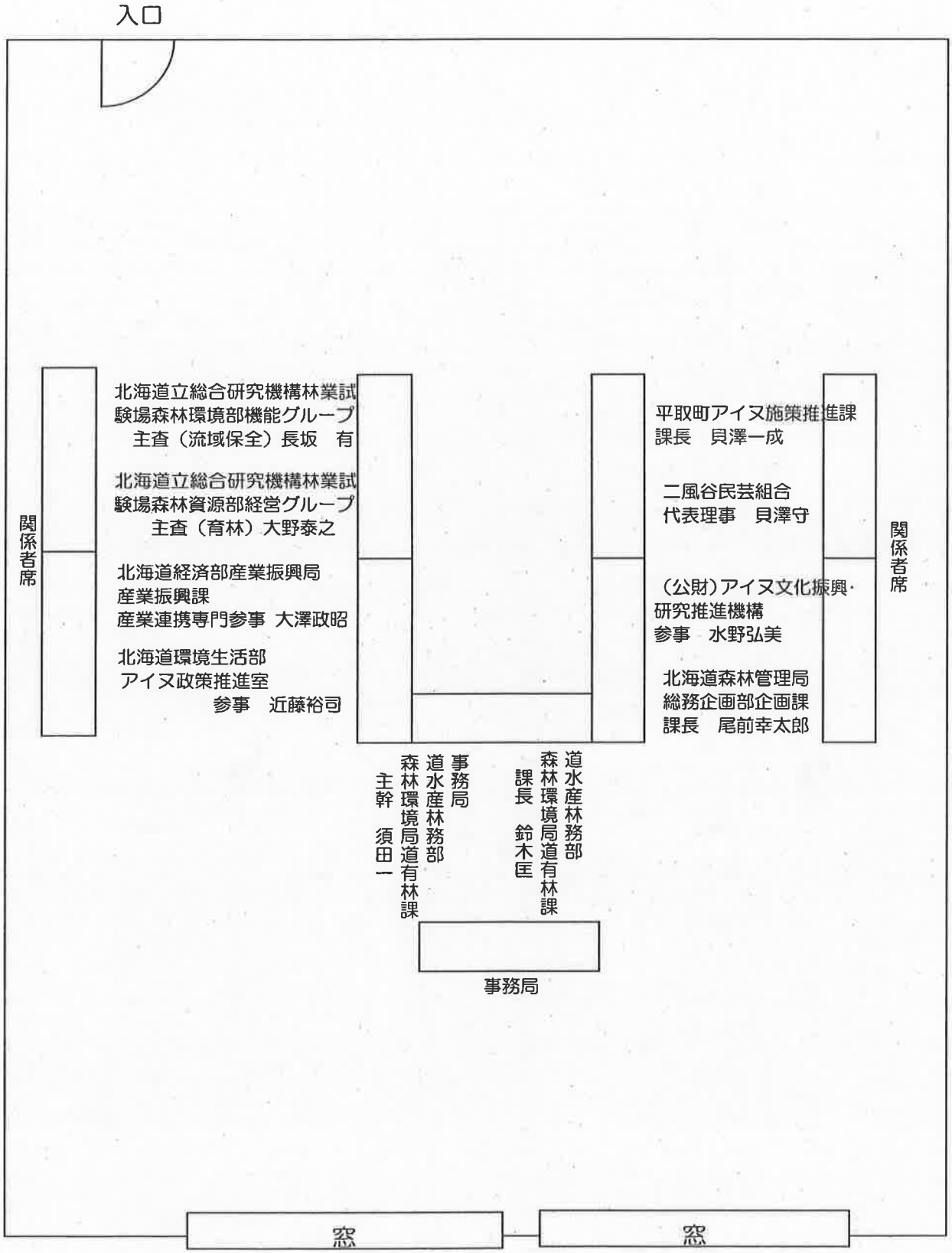
区分	所属	職	氏名	備考
文化	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	参事	水野弘美	
産業	二風谷民芸組合	代表理事	貝澤　守	
市町村	平取町アイヌ施策推進課	課長	貝澤一成	

事務局

区分	所属	職	氏名	備考
事務局	北海道水産林務部森林環境局道有林課 道有林整備グループ	主幹	須田　一	
〃	北海道水産林務部森林環境局道有林課 道有林整備グループ	主査	土屋禎治	

第１回　オヒョウの持続可能な利用方策検討会
配席図

日時：平成 26 年 1 月 21 日（火）14:00-15:30
場所：道庁 7 階水産林務部 1 号会議室



資料１

オヒョウの持続可能な利用方策検討会設置要領

１　設置の目的

「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」の指定を受けた「二風谷アットゥシ」の原材料であるオヒョウ樹皮は、沙流川流域で入手が困難となりつつある。

このため、「二風谷アットゥシ」製造の基盤となる原材料を国・道有林から将来にわたって需要に応じた供給ができるよう検討することとし、「オヒョウの持続可能な利用方策検討会」（以下「利用方策検討会」という。）を設置する。

２　所掌事項

利用方策検討会の所掌事項は、次のとおりとする。

（１）アイヌ文化におけるオヒョウ利用に関すること
（２）オヒョウの持続可能な利用の技術に関すること
（３）国有林と道有林が連携したオヒョウ供給体制に関すること
（４）オヒョウの持続可能な利用方策の取りまとめに関すること

３　構成・運営

（１）利用方策検討会の構成員及びオブザーバーは、別表１、２のとおりとする。
（２）利用方策検討会に会長１名を置く。
（３）会長は、互選により選出する。
（４）会長は、利用方策検討会を招集し、主宰する。
（５）会長は、必要があるときは、構成員及びオブザーバーを追加することができる。

４　設置期間

設置期間は、平成２６年３月３１日までとする。

５　庶務

利用方策検討会の庶務は、北海道水産林務部森林環境局道有林課道有林整備グループが行う。

６　その他

ここに定めるもののほか、運営に必要な事項は別途定める。

附則

この要領は、平成26年１月８日から施行する。

別表１
利用方策検討会構成員

分野	所属	職	氏名	備考
文化	北海道環境生活部アイヌ政策推進室	参事	近藤裕司	
産業	北海道経済部産業振興局産業振興課	産業連携専門参事	大澤政昭	
研究	（地独）北海道立総合研究機構林業試験場 森林資源部経営グループ	主査（育林）	大野泰之	
	（地独）北海道立総合研究機構林業試験場 森林環境部機能グループ	主査（流域保全）	長坂　有	
森林	北海道森林管理局総務企画部企画課	課長	尾前幸太郎	
	北海道水産林務部森林環境局道有林課	課長	鈴木　匡	

別表２
利用方策検討会オブザーバー

分野	所属	職	氏名	備考
文化	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	参事	水野弘美	
産業	二風谷民芸組合	代表理事	貝澤　守	
市町村	平取町アイヌ施策推進課	課長	貝澤一成	

資料２

伝統的工芸品（二風谷アットゥシ）原材料確保に係る検討経過

１　検討の背景

- 「二風谷アットゥシ」の原材料であるオヒョウ樹皮は、沙流川流域の資源が少なく、平取町内では入手が困難
- 沙流川上流域の日高北部森林管理署（国有林）管内のオヒョウ資源を利用してきたが、近年、採取地が奥地化
- 道内のオヒョウ資源分布などの基礎情報が不足
- 平成２５年３月に「二風谷アットゥシ」が伝統的工芸品に指定されたことを踏まえ、国・道有林から将来にわたって原材料の確保ができるよう関係者が連携して取り組むことが必要

２　検討経緯

- 平成 25 年６月 17 日（月）

「北海道の森林づくりに関する覚書」を北海道森林管理局と道が締結し、覚書の一環として、伝統的工芸品（二風谷アットゥシ）原材料確保に係る連携の検討を開始

- 平成 25 年９月
  - ・北海道立総合研究機構林業試験場が全道のオヒョウ分布マップを作成
  - ・オヒョウ分布マップにより道有林内のオヒョウ生育地調査を実施
- 平成 25 年 11 月７日（木）～８日（金）

「伝統工芸の原材料供給に関する現地検討会」の開催

- ・場　所：トマム地区国有林、上川南部管理区道有林
- ・参加機関：（公財）アイヌ文化振興・研究推進機構、平取町役場アイヌ施策推進課、北海道立総合研究機構林業試験場、北海道森林管理局総務企画部企画課、上川南部森林管理署、北海道水産林務部森林環境局道有林課、上川総合振興局南部森林室　合計 18 名
- ・内　容：国有林における樹皮採取地の視察、道有林の候補地の視察、室内検討
- ・検討結果：トマム地区国有林ではまだ数年採取可能
  上川南部管理区道有林のオヒョウは伸びがよく良い材料採取が可能
  資源量の把握については、国・道有林側からの情報と、採取者側の情報を共有することが大切　など

道有林上川南部管理区の林況

同地区の視察の様子

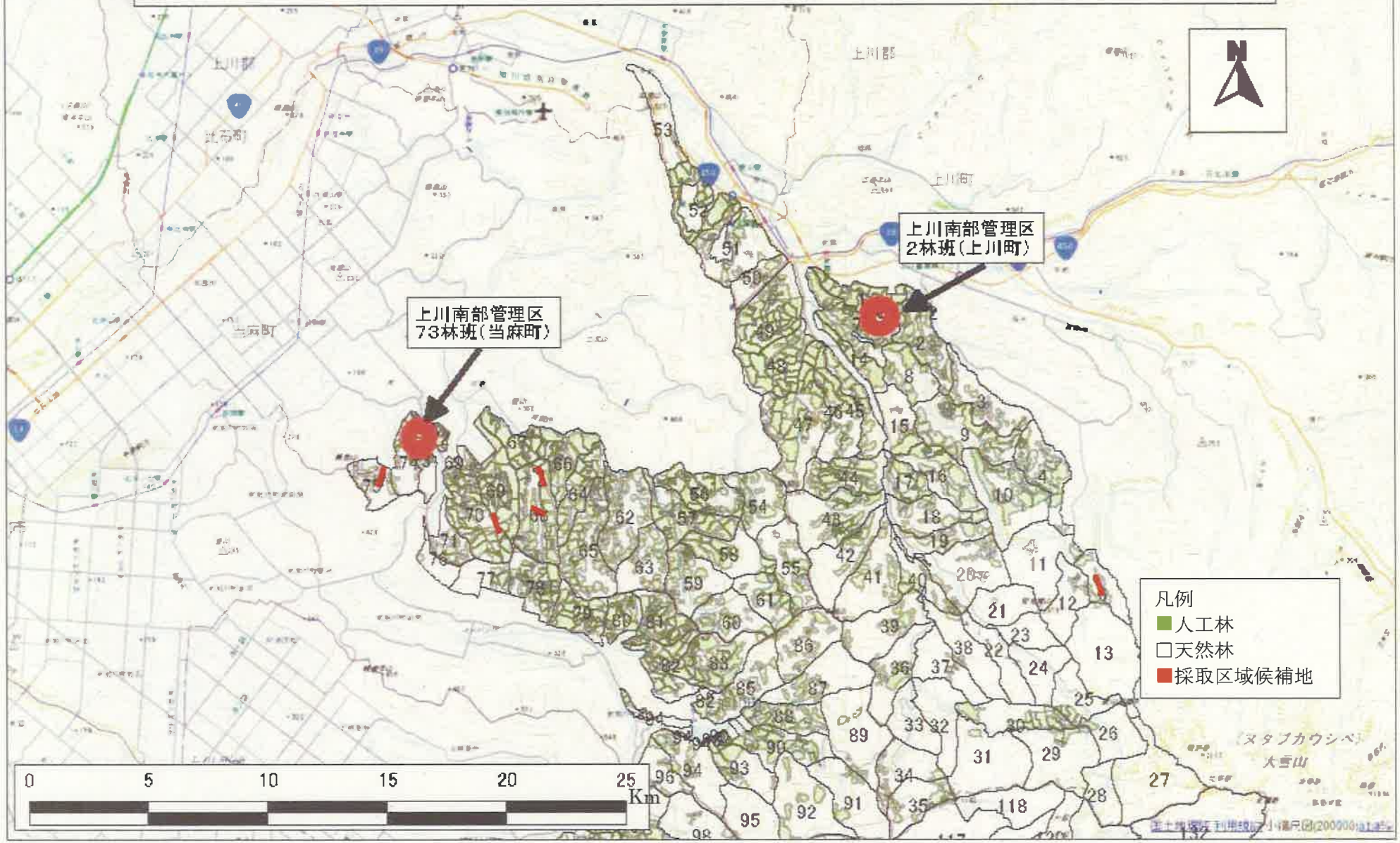
室内検討の様子

- 平成 25 年 12 月 18 日（水）

「21 世紀･アイヌ文化伝承の森」プロジェクト第３回作業部会において、伝統的工芸品（二風谷アットゥシ）原材料確保に係る国有林と道有林の連携について提案・意見交換

（北海道水産林務部森林環境局道有林課）

伝統的工芸品の原材料供給に関する現地検討会位置図
ーオヒョウ採取区域候補地ー



資料３

アイヌ文化における自然素材の利活用の概要

環境生活部アイヌ政策推進室

１　アイヌ文化について

北海道に古くから住んでいるアイヌの人たちは、自然の恵みに感謝し、漁狩猟や植物採取を主な生業として暮らしていた日本の先住民族です。

アイヌ文化の成立は１２～１３世紀頃といわれており、アイヌの人たちを史料の上で確認できるのはおおよそ１５世紀頃からです。

２　アイヌ文化と植物

(1) 概要

北の厳しい自然の中で暮らすアイヌの人たちの生活は、四季をとおし山野、海、川での狩猟、漁労、植物採取などによって営まれていました。

山野でのエゾシカやヒグマ猟、川や沖合いでのサケやマス漁のほか、オオウバユリなど食料としての植物採取のみならず、衣服などの材料としてオヒョウ、シナ、イラクサなどの採取を行っていました。

安政６年(1859 年)刊行「蝦夷漫画」(松浦武四郎)
アイヌがオヒョウの皮を剥ぎ繊維を取る様子

(2) 植物採取とアイヌ語地名

今に残るアイヌ語由来と言われる地名からも植物採取の重要性を伺い知ることができます。

現在の地名	市町村	アイヌ語地名	アイヌ語の意味
厚志内	上ノ国町	アッウシナイ	オヒョウニレ・群生する・川
厚田	石狩市	アッタ	オヒョウニレの皮・を採る
厚真	厚真町	アッオマプ	オヒョウニレ・ある・所
厚岸	厚岸町	アッケウシイ	オヒョウニレの皮・を剥ぐ・いつもする・所
厚床	根室市	アットゥクト	オヒョウニレ・伸びている・沼

(複数の説がある)

(3) アイヌの人たちの衣服

かつてのアイヌ人たちの伝統的な衣服には、オヒョウニレやシナノキなどの樹木の内皮で織ったもの、イラクサの食物繊維で織ったもの、サケ、マスなどの魚皮を継ぎ合わせたもの、アザラシやヒグマなどの動物の毛皮でつくったもの、エトピリカの鳥羽を縫い合わせてつくった衣服がありますが、これらの中で代表的なそして最も身近であった衣服はオヒョウニレの内皮で織ったアットゥシと呼ばれる樹皮衣です。

(4) オヒョウ樹皮の採取

オヒョウ樹皮の採取は、(公財)アイヌ文化振興・研究推進機構がアイヌ文化伝承者や研究者などの協力により作成している「アイヌ生活文化再現マニュアル」によると次のとおりとなっています。

ア　直径１５～２０cmで節や枝の少ないものを選定
イ　立ち木の根元から３０～４０cm位に水平にナタを入れる
　　（木質部までは切らない）
ウ　樹皮の端をおこして両手で持ち７～８cm位の幅で真っ直ぐ上に剥ぎ上げる
エ　途中で細くならないよう、ねじって揺さぶるようにこずえに向かって剥ぐ
オ　剥いだ後、乾燥しないうちにその場で硬い外皮を削り取り、内皮を分離する

ウ

エ

オ

資料４－１

伝統的工芸品産業の振興に関する法律に基づく伝統的工芸品の指定等について

Ｈ２６．１．２１
経済部産業振興課

１　伝統的工芸品産業の振興に関する法律（伝産法）の概要

（１）目　　的　　伝統的工芸品産業の振興により、国民生活に豊かさと潤いを与えるとともに、伝統的技術・技法の伝承や地域の経済発展・雇用の創出に寄与すること

（２）指定要件　　①日用品　②手工業的　③伝統的な（100年以上）技術・技法
④伝統的に使用された原材料　⑤一定の地域で産地形成

（３）補　　助　　振興計画に基づく事業への補助

２　指定概要

平成２５年３月８日　アイヌ工芸品２品目が本道初の指定　※４７都道府県　２１５品目
（平成２４年１２月６日付け指定申出）　(平成25年12月26日現在：218品目)

（１）申 出 者　　二風谷民芸組合（昭和39年12月設立）　事業者数１４

（２）工 芸 品　　二風谷アットゥシ（用途：着尺,着物,手甲,脚絆,帯地,小物類,壁掛け等）

沙流川流域に古くから伝わるオヒョウ等の樹皮の内皮から作った糸を用い機織りされた反物。
水に強いことや通気性に優れていること、天然繊維としては類稀な強靭さと独特の風合いが特徴で、アットゥシの製品は、伝統的衣装のほか、帯地、バッグ、財布など多彩。

二風谷イタ（用途：盆、茶托）

沙流川流域に古くから伝わる木製の浅く平たいお盆。
モノウレカ（うずまき・形を模したもの）などのアイヌ文様、ラムラムノカ（ウロコ・形を模したもの）と呼ばれるウロコ彫りが特徴。

（３）製造地域　　平取町二風谷

（４）申出理由　　後継者不足、原材料の不足、商品開発の遅れ等を解決すべく、伝統的な技術・技法を保ちつつ、人材育成、ブランド化、商品開発などを行い、伝統工芸に係る産業の振興を図る。

（５）指定効果　　工芸品の認知度を高め、従事している人々の誇りと自信を喚起し、販路拡大や販売促進に大きく貢献する。

（６）振興事業　　後継者育成、技術と品質の保持・向上、原材料確保、品質表示・消費者への適正な情報提供、需要開拓、地域の環境づくり

（７）出荷額(H23)　二風谷アットゥシ　500万円（昭和４０年代の最盛期　1,500万円程度）
二風谷イタ　600万円（昭和４０年代の最盛期　850万円程度）

３　振興計画認定・補助金採択状況等

○７月　５日　「振興計画」認定（６月１４日付け認定申請）
○９月　２日　「伝統的工芸品産業支援補助金」採択決定（７月８日付け事業計画書提出）
○10月２８日　「伝統的工芸品産業支援補助金」交付決定（１０月１５日付け交付申請）

（１）振興計画
①実施期間　平成２５年９月１日～平成３０年８月３１日（５カ年）
②事業内容　○後継者確保・育成　○技術・技法の継承・改善　○原材料の確保・研究
○需要開拓　○作業環境改善　○原材料共同購入、共同販売
○品質表示・福利厚生・組合表彰　等

（２）平成２５年度事業計画（主なもの）
①若年者等後継者育成事業
・優れた人材育成に取り組む沖縄県等の先進地視察等
②技術・技法の記録収集・保存事業
・原料調達から商品化までの制作記録等の作成、データベースの構築
③需要開拓事業
・首都圏、ハワイなどでの展示会への参加
・二風谷への誘客ツアーの実施、カタログ等の作成
④意匠開発事業
・工芸品や雑貨等を扱うｾﾚｸﾄｼｮｯﾌﾟを対象としたアンケート調査
・インターネットを活用したニーズ調査の実施

４　道のＰＲ支援

別紙のとおり

資料４－２

伝統的工芸品「二風谷イタ」・「二風谷アットゥシ」のＰＲ支援

Ｈ２５．１２．３１
経済部産業振興課

[各種イベントや展示販売スペースを活用したＰＲ支援]

《実施》
○赤れんが庁舎「国際交流・道産品展示コーナー」で展示ＰＲを実施
（７月１２日～）
○バイヤー会議（稚内、５月１５日）及び北海道産品取引商談会（札幌、６月１１～１２日）において、アイヌ工芸品カタログ等を配付し、展示ＰＲ・販売について働きかけを実施
○代々木フェア（東京、１０月４～６日）での展示ＰＲ
○東京事務所「観光パンフ設置コーナー」でアイヌ工芸品カタログを配置
（１０月７日～）
○ふるさと４７ビレッジ（東京、９月３０日～１０月１４日）での展示ＰＲ
（東京都庁主催：４７都道府県の特産品、観光情報を発信）
○日高振興局道民ホールで「伝統的工芸品指定パネル展」を実施
（１０月９日～１１月７日）
○どさんこプラザ札幌店で「二風谷民芸展」を実施（１１月６日～１２日）

《今後の予定》
○ＡＮＡインターコンチネンタルホテル東京「北海道フェア」（１月１５日～２月２８日）での展示ＰＲ・販売
○東武百貨店及び高島屋の物産展での展示ＰＲ・販売に向けバイヤーに働きかけを予定（札幌、１月）
○北から暮らしの工芸祭（札幌、３月）での展示ＰＲ・販売
※二風谷民芸組合と主催者で調整中

[道広報等を活用したＰＲ支援]

＜広報紙＞

○ひだかしんきん地区内経済概況	４月号掲載
○広報紙「ほっかいどう」	７月号掲載（※日高振興局ＰＲ枠で掲載）

＜インターネット＞

○道ＨＰ、日高振興局ＨＰ	指定（３月８日～） 知事との面談（４月２５日～） 赤れんが庁舎での展示（７月１２日～） 祝賀会（７月２７日～） 知事の平取訪問（１０月２９日～） 二風谷民芸展（１１月６日～）
○メルマガ　Do・Ryoku（動・力）	指定（第３５２号 ３月１５日）
○楽天「旬・ほっかいどう」	指定品目紹介（第８８号 ５月１５日～） 祝賀会（日高 第９２号 ９月１１日～）
○楽天「超！！旬ほっかいどう」	指定品目紹介（７月３日～） 祝賀会（記念品）紹介 （アイヌ政策推進室　８月８日～）
○㈱ジェーシービーＷＥＢサイト	掲載を働きかけ（４月） （※同社において掲載検討中）

[その他の支援]

○取材の働きかけ
・二風谷民芸組合代表理事等と知事との面談時（４月２５日）
・祝賀会開催時（７月２７日）
○庁内に伝統的工芸品利用（購入）促進を依頼（８月２６日）
○伝統的工芸品の購入
・海外からの来道者等への土産品として「イタ」を購入
（国際課　３月～１０月、６回）
・海外からの立地候補地視察者への土産品としてアットゥシ織の「名刺入れ」を購入（６月２１日）
・根室振興局長表彰「住民運動実践功労者表彰」の副賞としてアットゥシ織の「印鑑ケース」と「名刺入れ」を購入（１０月３日）
・道外からの立地企業への贈呈品としてアットゥシ織の「名刺入れ」を購入（１１月２７日）
・庁内に伝統的工芸品の購入を斡旋（１２月）
・北海道・札幌市行政懇談会用に「コースター」を購入（１２月１９日）

[今後の対応]

○道政広報レギュラー番組（テレビ）「ウィークリー赤れんが」で紹介（１月１２日）
○道の広報媒体やパンフレット等への掲載について、順次働きかけを予定
（例）グラフ誌「北海道」（外国人向けＰＲ誌）への掲載（※隔年発行）
ＡＩＲＤＯ機内誌「rapora」への掲載

イタ

名刺入れ

印鑑ケース

コースター

資料5

オヒョウの樹種特性，造成方法

道総研林業試験場森林環境部機能グループ主査　長坂　有

○オヒョウの樹種特性

・河川中上流部の河畔から斜面上部に生育する。
・同属のハルニレなどと混生することもあるが，より**水はけのよい場所に生育**する。
・ヤチダモやケヤマハンノキなどとも混生するが，水が停滞する場所にはむかない。
・生育環境的にはカツラとも共通し，オヒョウーカツラ群集という植生分類もある。
・稚樹は林道わきや，樹冠下の林床植生が消失した場所などに発生する。
・耐陰性はハルニレよりは高いとされ，比較的被陰下でも生育する。
・しばしば同所的に見られる樹木として，下記の樹種があげられる。
ヤチダモ，ハルニレ，カツラ，オニグルミ，シウリザクラ，イタヤカエデ，ハリギリ，ケヤマハンノキ，ウダイカンバ，シナノキ，キハダ，ミズナラ，アズキナシ‥

○オヒョウ林の造成

（1）　苗木の養成

・種子採取
実りの豊凶周期は約3年ともいわれるが，凶作が2年以上続くこともある。
豊作年の6月上旬～下旬、母樹を見つけて樹冠下にシート等を設置して採取
手が届く場所があれば，直接採取

・種子の処理・播種
原則，とりまきが望ましいが，冷蔵庫（0℃前後チルド）で5年程度の貯蔵は可能
当年発芽を促す場合、低温湿層処理（濡らした状態で約2週間チルド冷蔵）が有効
まき付10-20g／㎡で得苗数250-300本（東大演習林）
通常の苗畑では，種子が見えかくれする程度の覆土をし，敷きわらを施す。
屋内の育苗トレーなど，保湿管理された床ならば，覆土はなくてもよい。

・養苗期間
1年目：播種、2年目：発芽、3年目：床替え（6×6=36本/m2）→秋に苗高約50cm
4年目：山出し（春植え）

（2）　植栽

適湿な土壌を有する無立木地。
苗木は斜めに伸張することや，水はけを考慮すると，斜面が適するのではないか。
単一樹種なら5000～1万本/ha植栽？

・河畔性樹種7種で河畔にランダム混植した例：0.5m間隔（4万本ha）
他樹種に被圧され，オヒョウは10年で樹高4m程度（最高5.4m）
→成長が早い先駆樹種などとの混植は注意。

・混交林造成のための群状混植の例：7m×7mの区画に5000本/ha植栽　9樹種
30年で樹高10m前後（ウダイカンバ16m，カツラ9.5m，ミズナラ8m）
→改良点として，1区画を49㎡より大きくし，隙間をあけるなどを示唆。
構成樹種候補としては，上記の天然林出現樹種があげられる。

○参考文献

北の森づくりQ&A　北方林業会　2009
川づくりのための河畔林ガイド　北海道建設技術センター　2007
日本樹木誌1　日本林業調査会　2009
北海道の植生　北海道大学図書刊行会　1987
日本植生誌　北海道　至文堂　1985
北海道産広葉樹30種の実生育苗　東大演研報87　1992
広葉樹林育成マニュアル　北海道林業改良普及協会　2000
パッチワークの森，植栽30年後も健在　林業試験場グリーントピックス44　2011

「川づくりのための河畔林ガイド」北海道建設技術センター　2007　より抜粋

オヒョウ

No.21

概　要

名称等	オヒョウ（オヒョウニレ）：ニレ科
簡易識別法	葉形：倒広卵形～長楕円形、長さ7～15cm、二重鋸歯縁、左右不同、先はとがるか3～7個の裂片に分かれ、短毛が生える[38]。冬芽：長卵形、長さ3～6mm、ほぼ無毛[38]
貴重性	なし
類似種	ハルニレ
ライブラリーサイト	

タイプ	
樹種特性概要	渓谷林[17]、山地河畔林[29]、渓畔林[36]構成種
河川での重要性	なし
北海道内分布	全道分布

詳細樹種特性

立地特性	生育基盤	肥沃な深層土[13]
	光条件	中庸[88]
	水分条件 冠水条件 乾燥耐性	湿性～弱湿性[68]
	土壌適性	壌土[68]、肥沃な深層土[13]
環境耐性	耐風性	耐性あり[73]
	耐寒性	耐性あり[73]
	耐潮性	耐性ややあり[73]

分布特性	縦断分布	海抜400～500m以下の丘陵地帯に分布する[81]。谷帯から扇状地帯における河畔林の構成樹種
	水辺からの横断分布	渓谷斜面や山腹斜面に広く分布する[16]
	生育立地概要	肥沃、向陽の深層土を好む[13]、河川沿いの山麓下降斜面あるいは氾濫原に多くみられる[88]

繁殖更新	成長速度	やや速い[13]
	萌芽再生能力	
	寿命	250～300年[29]
	種子散布	風[31]、流水[29]

育成保全方法	増殖保全方法	実生苗によって増殖する[29]
	移植適応性	
	種子の特徴	種子は、果実の中央部やや下位に着生する[13]
	種子採取	莢が褐色になった頃、小枝ごと採取し、自然乾燥したあと脱粒する。乾燥しすぎると発芽が遅れる[81]

樹形の特徴	樹高	25～30mに達するが、一般的には15m程度[88]
	胸高直径	80～100cmに達するが、一般的には30cm前後[88]
	樹冠形状	傘状[88]
	幹の形状	単幹状となる
	根系形状	浅根性[72]

河川工学的視点	断面阻害性	樹幹は単幹状になりやすいため断面阻害性は低い
	立木密度等	点生[29]、純林をつくることはきわめてまれで、他の広葉樹とよく混生する[88]
	流木化	
	根系河岸保護効果	

生活サイクル	葉	春先にほぼ一斉に開葉するが、その後夏季までの間に若干葉が開き続ける[24]
	花	淡黄色で4～5月に葉より先に開花、枝に束生する[38]
	果実の特徴	翼果で広楕円形、長さ約15mm、6月上～中旬に成熟する。初め緑色であるが後に灰褐色になる[38]

生態系の視点	一緒に現れる生物	樹木：カツラ、エゾイタヤ、シナノキ、フッキソウ等 草本：オオハナウド、オオウバユリ、キツリフネ、クサソテツ、レンプクソウ、エゾイラクサ、ギョウジャニンニク等[16]
	他生物の利用	エゾリス、シマリス（食・実）[3]、アオバト、カワラヒワ、ウソ（食・実）[2]、シカの食害を受けやすい

保全上の留意点	

「生物多様性に配慮した森林整備事業の手引き」北海道水産林務部　2011　より抜粋

モデル1

複数樹種による群状混植

所在地：美唄市（光珠内実験林(220)）　　施業経歴：植栽（1976年）
所有者：北海道立総合研究機構　　下刈1年生～15年生
面　積：０.9ha　　間伐（未実施）
林　齢：３６年（平成２３年時点）
樹　種：シラカンバ、ウダイカンバ、エゾヤマザクラ、ハリギリ、カツラ、イヌエンジュ、ミズナラ、シナノキ、キハダ　全９種

○植栽の方法
・7m×7mの区画をパッチワーク状に配置
・一つのパッチには5×5=25本、同一樹種を植栽(5,000本/ha)
・9樹種の植栽樹種で、同じ樹種のパッチが隣り合わないように配置

サクラ	カツラ	ナラ	キハダ	ハリギリ	エンジュ	シラカバ	マカバ	シナ
ナラ	マカバ	エンジュ	サクラ	シラカバ	シナ	カツラ	ハリギリ	キハダ
シラカバ	キハダ	カツラ	ハリギリ	ナラ	サクラ	マカバ	シナ	エンジュ
ハリギリ	エンジュ	シラカバ	マカバ	シナ	カツラ	キハダ	サクラ	ナラ

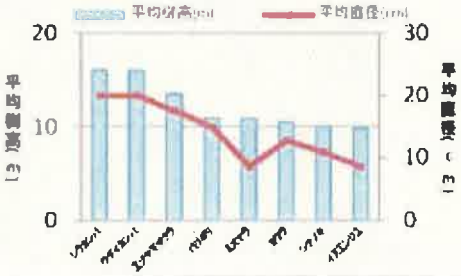
28m
63m

【概要】
いろいろな樹種を単木ごとに混ぜて植えたり（毎木混植）、列ごとに樹種を変えて植えたり（列状混植）しても、初期成長の遅い樹種は早い樹種に被圧されてしまう。そこで、本モデル林では各樹種を２５本として小区画（パッチ）に植栽し、それぞれのパッチを混ぜて配置することで、樹種間の競争を緩和しながら複数樹種による混交林を造成している。
このように周辺天然林と類似した複数の樹種を混植することにより、成長量の違いによる複数の植生階層が発達するとともに、種の多様性が確保される。

現況（平成23年）

多様な樹種からなる混交林が成立しており、周辺の天然性二次林と違和感のない林相となっている
（現在キハダを除く８樹種が残存）

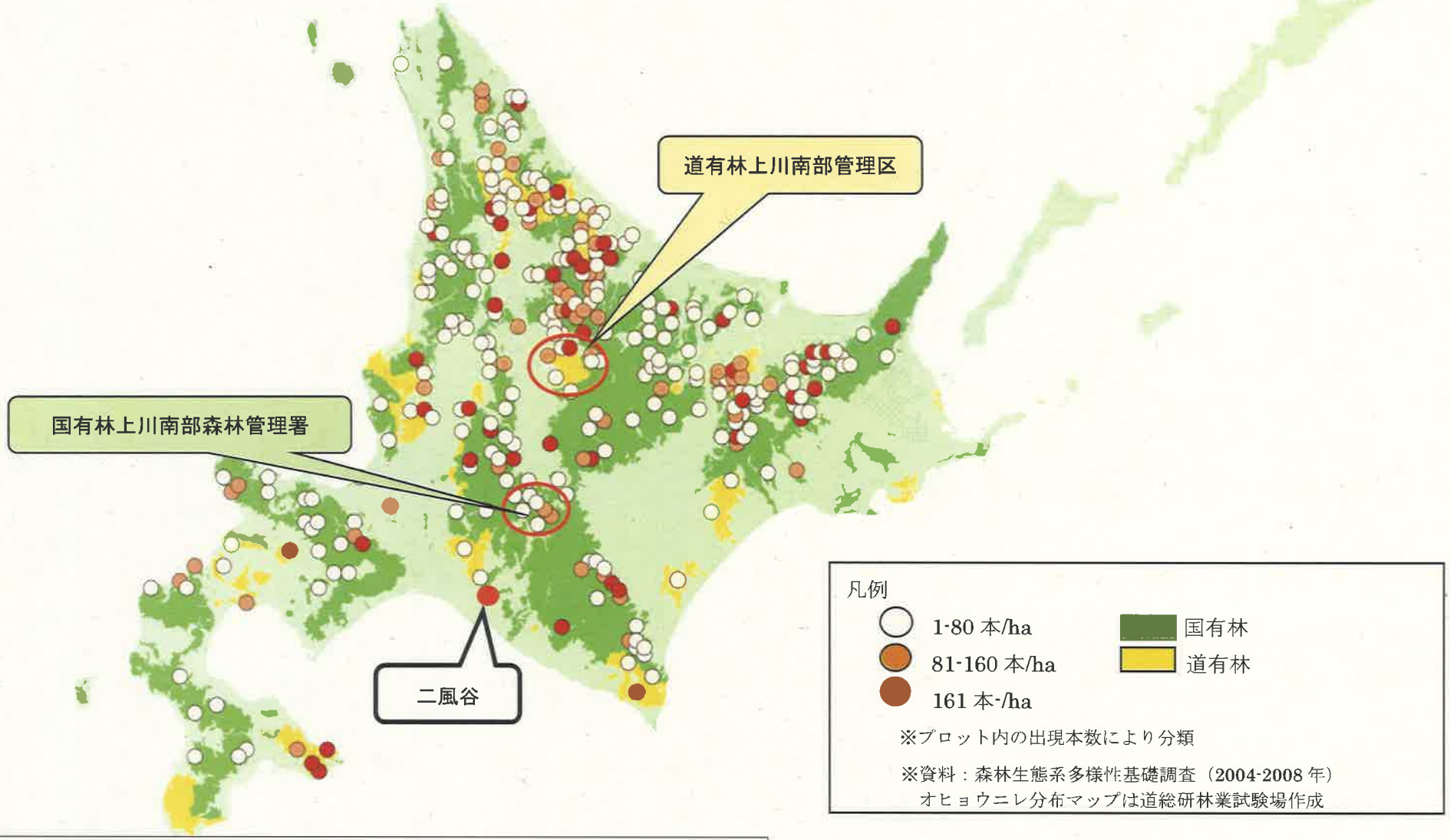
樹種	平均樹高(m)	平均直径(cm)	生存率(%)
シラカンバ	16.1	20.0	32
ウダイカンバ	16.0	20.0	14
エゾヤマザクラ	13.5	17.5	32
ハリギリ	10.9	14.9	16
ミズナラ	10.8	8.6	28
カツラ	10.5	12.7	30
シナノキ	10.0	10.8	4
イヌエンジュ	9.8	8.6	12



12

資料６

オヒョウ分布マップ



注：本分布マップは、国有林、道有林内のサンプリング調査のデータを元に作成しており、空白部分はオヒョウの分布が確認できていない（不明）ことを示している。

（北海道立総合研究機構林業試験場）

資料７

オヒョウの出現パターン

道総研林業試験場森林資源部経営グループ主査　大野泰之

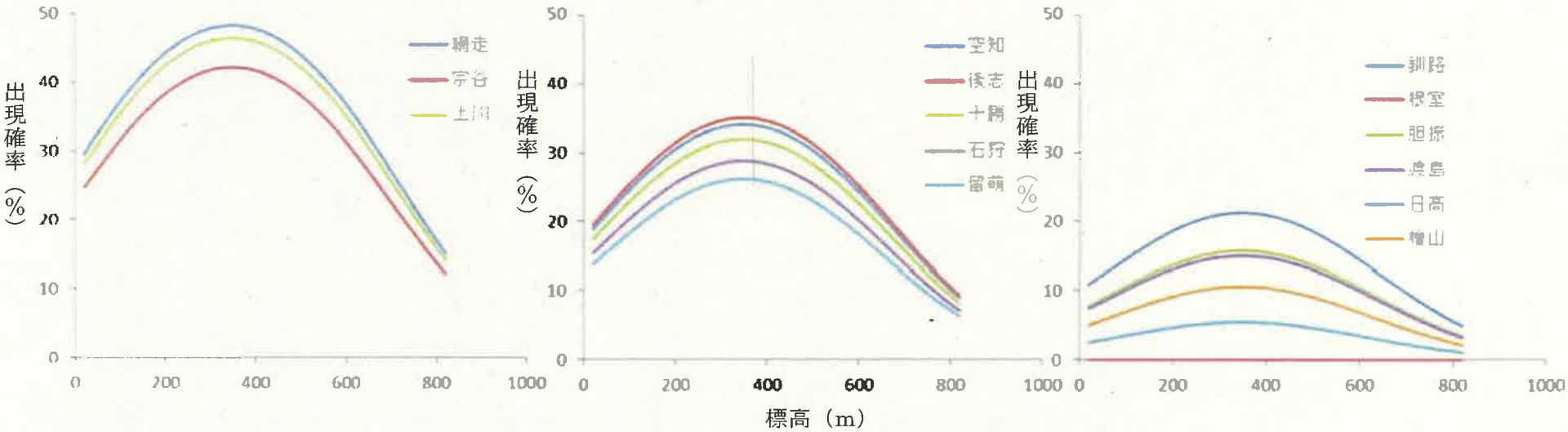
１　北海道内の国有林、道有林におけるオヒョウの出現頻度

オヒョウの出現頻度（国有林、道有林）

振興局名	調査地点数	オヒョウの出現した調査地点数	出現頻度(%)
オホーツク	240	77	32.1
上川	249	68	27.3
宗谷	82	22	26.8
空知	147	33	22.4
後志	110	23	20.9
石狩	69	11	15.9
留萌	131	20	15.3
十勝	263	39	14.8
釧路	172	21	12.2
渡島	83	9	10.8
胆振	85	8	9.4
檜山	59	4	6.8
日高	82	3	3.7
根室	34	0	0.0
計	1806	338	18.7

資料：森林生態系多様性基礎調査（2004―2008年）をもとに作成

２　地域・標高がオヒョウの出現パターンに及ぼす影響



資料８

林分単位でのオヒョウの径級分布予測

道総研林業試験場森林資源部経営グループ主査　大野泰之

１　林分単位でのオヒョウの径級分布予測

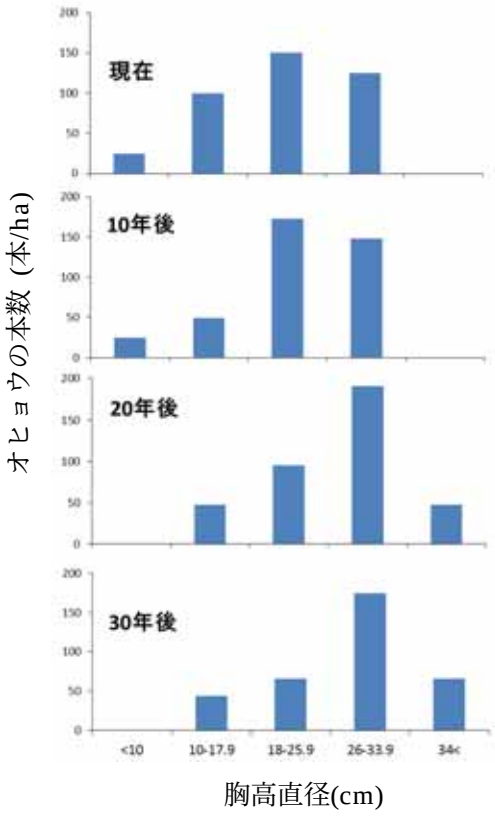
《シミュレーション》

・オヒョウの密度 400 本/ha のモニタリングプロットの林分の将来を予測

・固定成長量調査地などのデータを元にオヒョウの成長を予測

・天然更新木の侵入は考慮しない

※オヒョウは、本道では河川中上流部の河畔から斜面上部に広く生育する樹種で、その資源量は道有林内だけでも推計で約 170 万 m^3 あるが、効率的な利用を図るためには、高密度で作業条件の良い林分単位での施業方法の確立が求められる



２　持続可能な利用に向けた検討

（１）　検討の前提条件（案）

樹皮採取は人力作業となるため、林道脇の作業条件のよい林分（樹種構成等が均一な森林のまとまり）を設定し、将来にわたって持続的な利用ができることを目指す

・採取方法：人力（チェーンソー）伐倒－人力搬出－剥皮
　　伝統的な部分的な剥皮についても検討

・集材距離：100m 以内

・採取面積：１～２ha 程度

・伐採量　：50 本/年　←固定

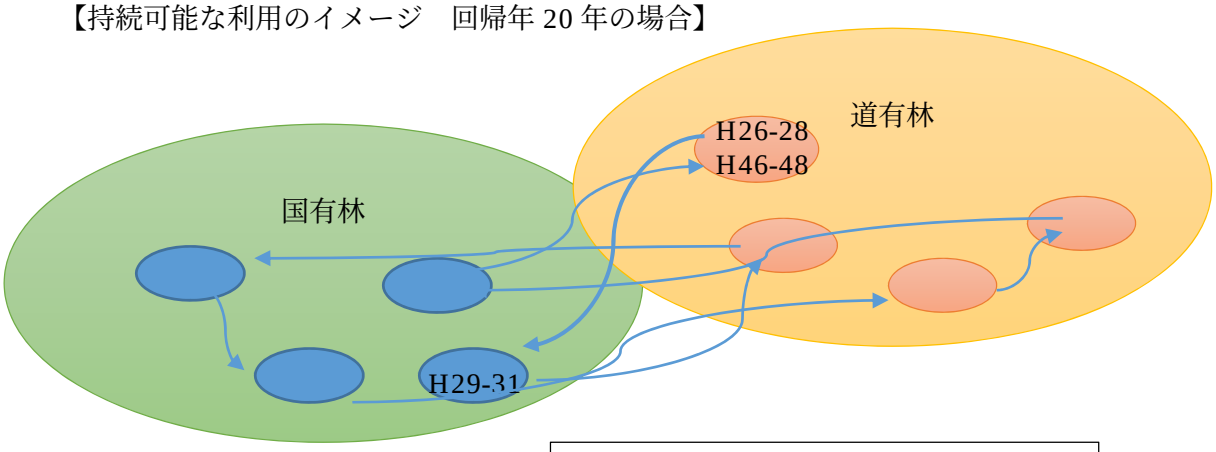
・対象径級：20cm-40cm　大径木や小径木は、次世代の更新などを考慮し伐採しない

・回帰年　：20 年～40 年（次に同じ採取地区で採取するまでの間隔）

（２）　持続可能な伐採方法

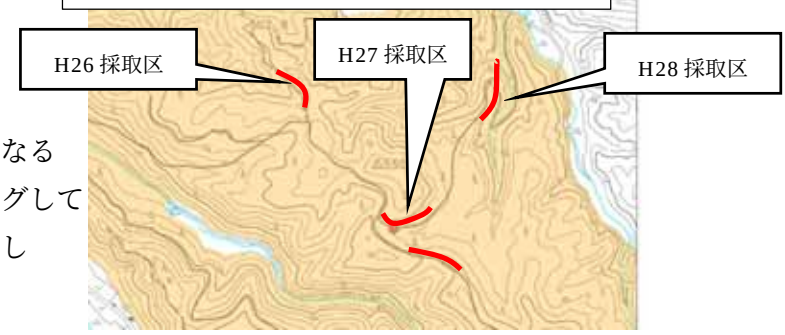
数パターンの伐採量・回帰年を想定、オヒョウの径級分布を予測し、持続可能性を検討

【持続可能な利用のイメージ　回帰年 20 年の場合】



オヒョウ樹皮採取地区

オヒョウ樹皮採取地区（例）



〇採取区域内の採取可能年数は
　オヒョウの生息状況により異なる
〇天然更新の状況をモニタリングして
　更新補助手段、回帰年の見直し
　など検討

採取区設定の考え方（例）
〇選定手順
・オヒョウ分布マップから生育地を推定
・現地調査を実施し、採取区域設定
〇選定基準
・オヒョウ生育密度　〇×本/ha（DBH20cm 以上）
・林道等から 100m 以内
・標高〇〇〇～〇〇〇m
〇設置箇所数等
・３～５採取区（各管理区 10 採取区程度を設置）
・平取町から約 200Km 圏内（3 時間以内）

資料９

国有林におけるアイヌ民芸品用原木払い下げについて

北海道森林管理局

【経緯】

平取地域における国有林からのアイヌ民芸品用原木払い下げについては、平成２３年度までの１０数年間は、日高北部森林管理署管内の沙流川流域にあるオヒョウニレを採取してきたところである。

近年、ある程度まとめて採取できる場所が奥地になり、人力での作業が困難になってきたことから、平成２４年度からは上川南部森林管理署管内のトマム地区において採取している。

【近年の実績】

森林管理署	年度	契約先	樹種	本数(本)	材積(㎥)
日高北部	２３	平取町長	ニレ	14	2.61
日高北部	２３	二風谷観光振興組合	ニレ	20	2.87
日高北部	２３	(社)北海道アイヌ協会平取支部	カツラ	1	10.80
計				35	16.28
上川南部	２４	平取町長	ニレ	17	5.30
上川南部	２４	二風谷観光振興組合	ニレ	37	10.65
日高北部	２４	平取町長	ウダイカンバ	1	0.74
計				55	16.69
上川南部	２５	平取町長	ニレ	14	3.17
上川南部	２５	二風谷観光振興組合	ニレ	33	9.94
計				47	13.11

資料１０

「オヒョウの持続可能な利用方策検討会」の進め方（案）について

１　利用方策の役割

○　国有林、道有林においてオヒョウ資源の安定的な利用・育成等を図るための基本的な考え方を関係機関が共有する

○　国民、道民共通の財産である国、道有林のオヒョウ資源の利用について、その公益性を明らかにし、説明責任を果たす

○　アイヌ文化におけるオヒョウ樹皮の活用方法について紹介し、道民や森林・林業関係者のアイヌ文化の理解の促進を図る

２　利用方策の検討

（１）　時　期：平成２６年１月～３月末まで

（２）　検討内容

アイヌ文化、二風谷アットゥシの現状と課題、オヒョウの持続可能な採取･育成方法、国・道有林から製造者への情報提供の取組などについて検討

第１回　・現状、課題　・利用方策の骨子について検討

第２回　・利用方策の案について検討

３　利用方策の作成・実行

（１）利用方策の作成

構成員（国、道、道総研）が、文化、産業、森林分野ごとに執筆分担して作成。作成に当たっては、オブザーバーの意見を十分踏まえることとする

（２）二風谷アットゥシ原材料確保に係る連携体制の構築・・・・別紙

（３）利用方策に基づくオヒョウ樹皮採取の実行

《想定されるフロー：上記方策に基づき、国、道、二風谷民芸組合等が協議》

３月

利用方策を国、道等が作成
（国・道有林、道総研林業試験場）

↓

採取地区の調整
（二風谷民芸組合等、国、道）

↓

４～５月

採取木の選木調査
（二風谷民芸組合等）

↓

５月

立木販売に係る申し出書、保安林申請の提出
（二風谷民芸組合等→国又は道）

↓

６～７月

樹皮の採取
（二風谷民芸組合、平取町）

（北海道水産林務部森林環境局道有林課）

別紙

二風谷アットゥシ原材料確保に係る連携体制の構築

原材料の販売

国有林・道有林

・オヒョウ資源の分布マップをもとに原材料採取区を設定

・オヒョウ資源の育成

利用量の協議

採取区の提示・立木販売

原材料の安定確保・利用

二風谷民芸組合、平取町

採取

加工

販売

オヒョウの持続可能な利用方策の作成

資源量の把握・将来予測

道総研林業試験場

二風谷アットゥシ原材料の持続可能な利用

伝統的工芸品の産業の振興

（北海道水産林務部森林環境局道有林課、北海道森林管理局総務企画部企画課）

資料 11

オヒョウの持続可能な利用方策の骨子（案）について

1　趣旨

「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」の指定を受けた「二風谷アットゥシ」の原材料であるオヒョウ樹皮は、沙流川流域の資源が少なく入手が困難となりつつある。

「二風谷アットゥシ」製造の基盤となる原材料の安定確保に資するため、オヒョウ資源の持続可能な利用方策を作成し、国・道有林から将来にわたって確保できるよう連携体制の確立を図る。

1 ページ

2　アイヌ文化とオヒョウ

（1）アイヌ文化と植物
- ・アイヌ文化における植物の利用
- ・伝統的なオヒョウ樹皮採取方法

1 ページ

（2）二風谷アットゥシの概要
- ・伝統的工芸品指定の経緯
- ・工芸品の特徴
- ・伝統的な技術・技法、主な工芸品
- ・アットゥシ製造の現状と課題

2 ページ

3　オヒョウの樹種特性とその分布

（1）樹種特性（形態、性質、立地、生活史など）

（2）資源の分布（全道、標高など）

2 ページ

4　オヒョウの持続可能な採取方法

（1）オヒョウ樹皮の利用量
- ・アットゥシの製造見込み量
- ・年間採取本数、採取木の径級

1 ページ

（2）オヒョウ採取地区設定の考え方
- ・オヒョウ生育密度、傾斜、地利、標高、面積
- ・採取地区の増加による採取圧の分散

1 ページ

（3）伐採方法
- ・径級分布予測に基づく成長量の推計
- ・選木基準、伐採率、回帰年

（4）更新方法
- ・後継樹の育成、天然更新、植込み、エゾシカ対策など

2 ページ

5　オヒョウの造成技術

（1）苗木の増殖育成

（2）群状混植法

1 ページ

6　二風谷アットゥシ原材料確保に係る連携体制

（1）オヒョウ採取の手続き（国・道ごとの処理フロー等）

（2）中・長期的なオヒョウ資源利用の考え方

2 ページ

合計１３ページ

資料１２

今後のスケジュール（案）について

１月中旬　利用方策検討会設置
第１回利用方策検討会開催（１／２１）
・現状、課題
・「利用方策」の骨子について検討

３月中旬　第２回利用方策検討会開催
・「利用方策」の案について検討

３月下旬　「利用方策」を北海道森林管理局、道、道総研林業試験場が連名で作成

《オヒョウ樹皮採取の実行》

４月上旬　「利用方策」に基づき、H26 年度立木販売箇所決定（道有林上川南部管理区を予定）

５月上旬　現地調査、立木販売の申し出、各種申請（二風谷民芸組合等）

６月中旬　立木販売契約、伐採、オヒョウ樹皮採取